



2015年3月31日
トムソン・ロイター・マーケッツ株式会社

トムソン・ロイター DealWatch、2014年度の「DEALWATCH AWARDS」を発表

総合部門は発行体に「**第一生命保険**」、引受ハウスに「**野村證券**」を選定

トムソン・ロイター・マーケッツ株式会社の「DealWatch(ディールウォッチ)」は、2014年度に国内資本市場において債券や株式を発行した優秀な発行体、海外で資金調達を行った本邦発行体および案件を運営した引受証券会社を称える賞「DEALWATCH AWARDS 2014(ディールウォッチ・アワード 2014)」を発表しました。

DEALWATCH AWARDS は、日本関連の資本市場の育成・拡大に資することを目的に 1995年に設置されました。「本邦市場が世界の主要市場としてさらに発展していく」という観点から、授賞の主な判断基準は発行市場における適正なプライシング、流通市場に移行した後の価格形成、資本市場の発展への貢献や創意・工夫などとなっています。

2014年度の DEALWATCH AWARDS は、「総合」「社債」「地方債」「サムライ債」「株絡み債」「株式」「不動産投資信託証券」の計7部門で構成されています。

賞の選考方法は、まず主幹事実績やシンジケート団参加の実績がある引受証券会社や投資家にアンケートを依頼し、該当会計年度の案件から各部門の受賞候補を選定します。2006年度からは、希望する証券会社からの自薦を受け、DealWatch 編集部が、選定された候補案件や候補者を独自の判断基準に則り、さらに吟味・選考した結果、最終的に受賞案件、受賞者を決定しております。

2014年度の DEALWATCH AWARDS 受賞一覧は添付資料をご覧ください。

以上

DealWatch について

DealWatch は日本の企業および地方公共団体、非日系発行体の資金調達活動をリアルタイムにリポートする日本語のスクリーンニュースサービスです。その速報性、正確性、専門性の高さには定評があり、信頼できる資本市場情報として、市場関係者から支持を得ています。主幹事・引受等のリーゲテーブルは、客観的かつ公平な指標として、発行体の主幹事選定や引受業者のマーケティング活動において幅広く活用されています。

トムソン・ロイターについて

トムソン・ロイターは企業と専門家のために「インテリジェント情報」を提供する企業グループです。業界の専門知識に革新的テクノロジーを結びつけ、世界で最も信頼の置かれている報道部門をもち、ファイナンシャル・リスク、法律、税務・会計、知財・学術情報、メディア市場の主要な意思決定機関に重要情報を提供しています。トムソン・ロイターの株式は、トロント証券取引所および ニューヨーク証券取引所に上場されています。詳しい情報は <http://thomsonreuters.com> をご覧ください。

DEALWATCH AWARDS 2014 受賞一覧

総合部門

<Issuer of the Year>

第一生命保険

多様な調達手段を活用して株式・債券資本市場にアクセス。グローバル戦略として米国生保の買収を示し機動的にファイナンスを完結したほか、日本のクレジットを世界に拡げることで投資家層の拡大につなげ市場の発展に貢献した。

<House of the Year>

野村証券

不安定な環境下においても精緻な条件設定で卓越した案件運営を執行。発行体のニーズに合わせた調達手段を提案するとともに成長戦略やビジネスモデルで評価される日本株の魅力を引き出し、投資機会を提供することで資本市場を牽引した。

社債部門

<Bond Issuer of the Year>

日本政策金融公庫

投資家との対話を重視する姿勢が高く評価された。金利の急低下で投資家が利率重視の姿勢に転じ、下限のスプレッドを保証した上で絶対値をベースでマーケティングを行う“新”絶対値プライシングという手法を取り入れた。

<Bond House of the Year>

野村証券

中小型案件が目立つ中で、本年度最大となるホールセールのパナソニック債など大型案件の引受実績が光り、デビュー債でも手腕を発揮。群を抜く引受力、巧みな起債運営、圧倒的な販売力は衆目の一致するところだ。

<Bond of the Year>

第1回三菱UFJフィナンシャル・グループ債（400億円、10年、劣後債）

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

第2回三菱UFJフィナンシャル・グループ債（100億円、10年NC5、劣後債）

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

バーゼルⅢ対応の新型劣後債の国内第1号案件。ペイルイン条項が付されるなど次元の異なる商品設計で、本年度の社債市場で注目度 No1 の呼び声が高く、新たな劣後債市場の活路を見出した。

<Debut Debt Deal of the Year>

第1回エイチ・アイ・エス債 (100億円、5年)

野村証券／大和証券／SMBC 日興証券

第2回エイチ・アイ・エス債 (100億円、7年)

野村証券

社債市場に旅行という業態から初めて登場。デビュー案件としては比較的長い年限かつ旅行業界をめぐる環境が決して良好とはいえないなかで適正なスプレッドを示し、多くの投資家からの需要を取り込んだ。

<Innovative Debt Deal of the Year>

第29回東日本高速道路債 (350億円、5年)

みずほ証券／野村証券／三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／シティグループ証券

スプレッドと絶対値の“二刀流”という他に例のないマーケティング・レンジを設定。金利変動が激しい市場環境に即した巧みな手法を取り入れ、投資家からの需要を喚起した。

<Offshore Bond of the Year>

地方公共団体金融機構第45回ユーロ債 (10億ユーロ、7年)

パークレイズ／BNP パリバ／メリルリンチ・インターナショナル／野村インターナショナル

同機構の非政府保証債として初めてとなる、ユーロ建ての債券をベンチマークサイズで起債。積極的な IR 活動や ECB 適格担保となるための新スキームの採用で、新しい投資家を取り込み大型案件を成功裏に終えた。

地方債部門

<Local Government Bond Issuer of the Year>

神戸市

本年度下期、日銀当座預金の超過準備に付く金利(付利)の0.1%が強く意識された。スプレッドを基準にマーケティングを進めつつ、付利+0.1bp の下限利率を設定する新たな試みは関係者に称賛された。

<Local Government Bond House of the Year>

野村証券

下半期のボラタイルな金利推移によって需給が悪化。シ団方式を含めた地方債案件での中長期的な安定消化という視点に即した手堅い起債運営と販売力が市場から高く評価された。

<Local Government Bond of the Year>

堺市平成26年度第1回公募公債 (150億円、30年)

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券／大和証券

日銀による追加緩和発表直後の難しい環境下で、同県初となる30年債を起債。マーケティング期間の短縮と先行案件にとらわれないプライシングで金利低下へのバッファーも担保し、30年ゾーンの目線を構築した。

サムライ債部門

<Samurai Bond Issuer of the Year>

コーペラティブ・セントラル・ライフアイゼン・ポエレンリーバンク（ラボバンク・ネダーランド）

本年度で最初となる 1000 億円超の案件に加え、サムライ債として初の新型劣後債を起債。発行体としてのプレゼンスをさらに高めただけでなく、後続劣後債の登場など、市場の活性化にも大きく貢献した。

<Samurai Bond House of the Year>

大和証券

安定した引受実績を誇り、リーグテーブルトップに輝いただけでなく、新型劣後債や、SSA セクターからのデビュー債、JBIC 保証債などを幅広く手掛け、質・量の両面で市場の発展に寄与した。

<Samurai Bond of the Year>

第 15 回ルノー債（750 億円、2 年）

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券

第 16 回ルノー債（750 億円、3 年）

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券

定期的な発行実績と IR 活動に加え、良好な市場環境を捉えて起債。相対的な格付けの低さをものともせず、スプレッドの厚みで年金勢の需要を集めフランス銘柄として過去最大発行額を実現した。

株絡み債部門

<Equity-linked Bond Issuer of the Year>

LIXIL グループ

IR 活動を通じた知名度の高さや充実した英文開示を背景に日本初の Un-docs 方式を選択し、機動的な資金調達を実現した。グローバル展開を進める本邦企業に調達手段の選択肢を広げた。

<Equity-linked Bond of the Year>

東レ 2019 年満期ユーロ円 CB（500 億円、5 年）

野村インターナショナル／大和証券キャピタル・マーケットズヨーロッパ／英国 SMBC 日興キャピタル・マーケット

東レ 2021 年満期ユーロ円 CB（500 億円、7 年）

野村インターナショナル／ゴールドマン・サックス・インターナショナル／英国 SMBC 日興キャピタル・マーケット

本年度最初の 1000 億円規模の大型案件として登場し、成長分野への投資という明確なエクイティストーリーを描くことで、高いアップ率を実現。東レ債の成功がきっかけとなり、リキャップ CB の市場への浸透が進んだ。

株式部門

<Equity Issuer of the Year>

三井不動産

アベノミクスを背景に日本の復活を象徴する案件となった。2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を前に、事業環境の変化を好機として、成長機会をとらえようとする姿勢に評価の声が集まった。

<Equity House of the Year>

野村證券

三井不動産やリクルートホールディングス、第一生命保険など大型ファイナンスを成功に導き、日本の資本市場をリード。資本市場で高いプレゼンスを示し、リーグテーブルでも圧倒的な力を見せつけた。

<Equity Deal of the Year>

第一生命保険

<払込日 07/23> ゴールドマン・サックス証券／野村證券

M&Aのクロージング前に買収資金をエクイティファイナンスで調達した本邦初の案件となった。M&Aの公表と同時に発行登録を行い公募増資の規模を示すことで、投資家に安心感を与えファイナンスを成功させた。

<IPO of the Year>

西武ホールディングス

<受渡日 04/23> UBS証券／みずほ証券

厳しい案件運営を強いられたものの、マーケットと向き合い、投資家の価格目線に寄り添う条件決定を行うことで良好なセカンダリーマーケットにつなげた。これによりIPO市況が一転し、モメンタムを形成した。

<IPO Issuer of the Year>

リクルートホールディングス

リクナビやゼクシィなどクライアントとユーザーを結びつける多様なプラットフォームを共通のビジネスモデルで運営する独自のノウハウを保有。安定した国内事業から生み出される潤沢なCFを背景にM&Aを進める戦略が評された。

<Innovative Equity Deal of the Year>

CYBERDYNE

<払込日 12/12> ドイツ銀行

CYBERDYNE 2017年満期ユーロ円CB(200億円、3年)

ドイツ銀行

海外公募とユーロ円CBの組み合わせで400億円の資金調達を実現。エスクロー契約によりクレジットへの懸念を解消し、アーリーステージの企業によるエクイティファイナンスに新たな筋道を示した。

不動産投資信託証券部門

<J-REIT Issuer of the Year>

インヴェンシブル投資法人

インバウンド需要の高まりをとらえてホテルへの投資を進める成長戦略を明確にし、ポートフォリオの再構築を実現。スポンサーであるフォートレスをバックに外部成長への期待も醸成した。

<J-REIT House of the Year>

SMBC 日興証券

リーグテーブルで首位を独走。インバウンド銘柄として注目されるインヴェンシブルの FO や社会的ニーズが高まるヘルスケア分野でもヘルスケア&メディカルの IPO を手掛け、市場の発展に貢献した。

<J-REIT Deal of the Year>

日本ヘルスケア投資法人

<払込日 11/04> 大和証券

高齢化が進む日本において、社会的なニーズに応えるために本邦初のヘルスケア特化型 REIT として上場を果たした。NHI の登場でヘルスケア市場の活性化と拡大に期待が集まった。

以上